

「町田市地域ホッとプラン(地域福祉計画・地域経営ビジョン 2030)」に掲げる「基本理念」等

1 基本理念

地域でささえあい 誰もが自分らしく暮らせるまちだ

近年では、人口減少に伴う人口構造の変化だけでなく、テクノロジーの急速な進展による人と人とのコミュニケーション方法の変容、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機とした新しい生活様式への転換等を受け、市民のライフスタイル・価値観は大きく変わろうとしています。また、地域ではコミュニティの希薄化が進むとともに、従来の公的支援では課題の発見や解決が困難な問題に直面する機会が増えてきており、これまで以上に人と人とのつながりや支え合いの必要性が高まっています。

そのため、本プランの基本理念を「地域でささえあい 誰もが自分らしく暮らせるまちだ」とし、市全体、地区等の様々な範囲で、様々な主体がそれぞれに合った形でつながり、そこで生み出された活力をもとに、地域課題の解決に取り組みます。そして、年齢や性別、障がいの有無等にかかわらず、誰もが身近な地域で支え合い、自分の役割や活躍の機会を得られ、自分らしく暮らすことができる、そんなまちの実現を目指します。

2 基本目標

ホッとできる
つながりを作ります

基本目標Ⅰ 今を生きる自分に合ったつながりをつくる

多様なライフスタイル・価値観が存在する現代においては、人と人との関わり方、つながり方についての考えも人それぞれです。近隣の協力関係等、地域でのつながりについて必要と感じている方は多いものの、「自分ゴト」としての地域活動への参加率は低くなっています。時とともに変化するつながりの中で、多様化する市民の価値観に合った地域活動への参加のきっかけづくりを行います。

つながりがホッとな
力を発揮します

基本目標Ⅱ つながりで地域の活力を生み出す

行政や地域で活動する団体が単独では解決できない課題に対応するためには、地域・企業・行政等の様々な主体が連携し、共通のビジョンを持って取り組むことが必要です。様々な主体が強みや特性を相互に理解したうえで、新たな解決手法を生み出せるよう、連携体制の構築や持続可能な地域づくりを進めます。

困っている人を
ホッときません

基本目標Ⅲ 必要な人に必要な支援が届く仕組みをつくる

「8050問題」や「ダブルケア」等、個人や家族が抱える課題が複雑化・複合化している中で、必要な支援につながることでできない人に対する取組が求められています。

困りごとを抱える人を必要な支援につなげられるよう、行政の各分野が横断的に連携し、相談支援機能の強化を図ります。また、地域とともに、困りごとを抱える人を早期に発見し、必要な支援を行います。